

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 23 年 12 月 1 日 (2011.12.1)

【公表番号】特表 2011-500930 (P2011-500930A)

【公表日】平成 23 年 1 月 6 日 (2011.1.6)

【年通号数】公開・登録公報 2011-001

【出願番号】特願 2010-530407 (P2010-530407)

【国際特許分類】

C 0 8 G 18/12 (2006.01)

C 0 9 D 175/04 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 G 18/12

C 0 9 D 175/04

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 23 年 10 月 17 日 (2011.10.17)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

式 (I)

【化 1】

$R^a-(-Y-[-X_i]_n-(CO)-N-R^b-NCO)_k$

[式中、 R^a は、 k 個の基、好ましくは有機基であり、

k は、3 ~ 6 の正の整数であり、

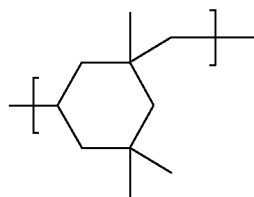
Y は、酸素原子又は窒素原子であり、

X_i は、 $-CH_2-CH_2-O-$ であり、

n はそれぞれ k に関して互いに独立して 0 又は正の整数を意味するが、但し、式 (I) の化合物中で、少なくとも 3 個であり、かつ 16 個を上廻ることのない基 X_i が含有されていることを条件とし、かつ、

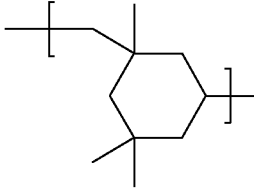
R^b は、それぞれ k に関して互いに独立して

【化 2】



又は

【化 3】



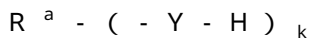
を意味する] のウレタン基含有ポリイソシアネート。

【請求項 2】

k が 3 ~ 4 の値である、請求項 1 に記載のウレタン基含有ポリイソシアネート。

【請求項 3】

ベースとなるアルコール



[式中、Y は酸素原子を示す] が、トリメチロールブタン、トリメチロールプロパン、トリメチロールエタン、ペンタエリトリット、グリセリン、ジトリメチロールプロパン、ジペンタエリトリット、ソルビット、マンニット、ジグリセロール、トレイトール、エリトリット、アドニット (リビット)、アラビット (リキシット)、キシリット及び ズルシット (ガラクチット) から成る群から選択される、請求項 1 に記載のウレタン基含有ポリイソシアネート。

【請求項 4】

ベースとなるアルコール



[式中、Y は窒素原子を示す] が、トリエタノールアミン、トリプロパノールアミン及び 1, 3, 5 - トリス - (2 - ヒドロキシエチル) シアヌル酸から成る群から選択される、請求項 1 に記載のウレタン基含有ポリイソシアネート。

【請求項 5】

NCO 含量 (42 g / モルのモル質量を有する NCO として換算する) が、5 質量 % を上廻り、かつ、15 質量 % までである、請求項 1 から 4 までのいずれか 1 項に記載のウレタン基含有ポリイソシアネート。

【請求項 6】

請求項 1 から 5 までのいずれか 1 項に記載のウレタン基含有ポリイソシアネート、場合により他のポリイソシアネート及びイソシアネートに対して反応性の基を含有する少なくとも 1 種の成分を含む、二成分系ポリウレタンラッカー。

【請求項 7】

クリアラッカー中での、請求項 1 から 5 までのいずれか 1 項に記載のウレタン基含有ポリイソシアネートの使用。

【請求項 8】

(大型) 車両、航空機のための被覆材料中での、OEM の際の自動車用ラッカー中での並びに塗換え用途のための、請求項 1 から 5 までのいずれか 1 項に記載のウレタン基含有ポリイソシアネートの使用。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0013

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0013】

アルコール $R^a - (-Y-H)_k$ [式中、Y は、酸素原子を示す] に関する例は、トリメチロールブタン、トリメチロールプロパン、トリメチロールエタン、ペンタエリトリット、グリセリン、ジトリメチロールプロパン、ジペンタエリトリット、ソルビット、マンニット、ジグリセロール、トレイトール、エリトリット、アドニット (リビット)、アラ

ビット（リキシット）、キシリット及びズルシット（ガラクチット）である。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0108

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0108】

最終的に、たとえば、 - 不飽和カルボン酸、例えばアクリル酸、メタクリル酸（本願明細書中においては（メタ）アクリル酸と略す）と、ジオール又はポリオールとのモノエステル、この場合、これは好ましくは2～20個の炭素原子及び少なくとも2個のヒドロキシ基を有し、例えばエチレングリコール、ジエチレングリコール、トリエチレングリコール、1,2-プロピレングリコール、1,3-プロピレングリコール、1,1-ジメチル-1,2-エタンジオール、ジプロピレングリコール、トリエチレングリコール、テトラエチレングリコール、ペンタエチレングリコール、トリプロピレングリコール、1,4-ブタンジオール、1,5-ペンタンジオール、ネオペンチルグリコール、ヒドロキシピバリン酸ネオペンチルグリコールエステル、2-エチル-1,3-プロパンジオール、2-メチル-1,3-プロパンジオール、2-ブチル-2-エチル-1,3-プロパンジオール、1,6-ヘキサジオール、2-メチル-1,5-ペンタンジオール、2-エチル-1,4-ブタンジオール、2-エチル-1,3-ヘキサジオール、2,4-ジエチル-オクタン-1,3-ジオール、2,2-ビス（4-ヒドロキシシクロヘキシル）プロパン、1,1-、1,2-、1,3-及び1,4-ビス（ヒドロキシメチル）-シクロヘキサン、1,2-、1,3-又は1,4-シクロヘキサジオール、グリセリン、トリメチロールエタン、トリメチロールプロパン、トリメチロールブタン、ペンタエリトリット、ジトリメチロールプロパン、ジペンタエリトリット、ソルビット、マンニット、ジグリセロール、トレイトール、エリトリット、アドニット（リビット）、アラビット（リキシット）、キシリット及びズルシット（ガラクチット）、マルチット、イソマルト、162～4500、好ましくは250～2000の分子量を有するポリ-THF、134～2000の分子量を有するポリ-1,3-プロパンジオール又はポリプロピレングリコールであるか、あるいは、238～2000の分子量を有するポリエチレングリコールである。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0114

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0114】

このポリエステルオールの製造のための多価アルコールとしては、1,2-プロパンジオール、エチレングリコール、2,2-ジメチル-1,2-エタンジオール、1,3-プロパンジオール、1,2-ブタンジオール、1,3-ブタンジオール、1,4-ブタンジオール、3-メチルペンタン-1,5-ジオール、2-エチルヘキサン-1,3-ジオール、2,4-ジエチルオクタン-1,3-ジオール、1,6-ヘキサジオール、モル質量が162～4500、好ましくは250～2000であるポリ-THF、モル質量が134～1178であるポリ-1,3-プロパンジオール、モル質量が134～898であるポリ-1,2-プロパンジオール、モル質量が106～458であるポリエチレングリコール、ネオペンチルグリコール、ヒドロキシピバリン酸ネオペンチルグリコールエステル、2-エチル-1,3-プロパンジオール、2-メチル-1,3-プロパンジオール、2,2-ビス（4-ヒドロキシシクロヘキシル）プロパン、1,1-、1,2-、1,3-及び1,4-シクロヘキサジメタノール、1,2-、1,3-若しくは1,4-シクロヘキサジオール、トリメチロールブタン、トリメチロールプロパン、トリメチロールエタン、ネオペンチルグリコール、ペンタエリトリット、グリセリン、ジトリメチロールプロパン、ジペンタエリトリット、ソルビット、マンニット、ジグリセロール、トレイト

ール、エリトリット、アドニット（リビット）、アラビット（リキシット）、キシリット、ズルシット（ガラクチット）、マルチット又はイソマルトが挙げられ、これらは場合により前記のようにアルコキシル化されていてもよい。